

Title	マアシヤル教授のNational Guilds評論梗概
Sub Title	
Author	三邊, 金蔵
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1919
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.13, No.12 (1919. 12) ,p.1627(91)- 1637(101)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19191201-0091

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「メーレン」其他の地方に産出する、羊毛の買込み、之れを「イグラウ」市の毛織物業者及帽子製造人に交附すると共に、彼等の製品を遠くは匈牙利及「ジーベンブルゲン」地方の市場に供給せしものである、但、此會社より原料の供給を受け且つ其製品の販賣を依頼するものは、同時に他より原料の供給を受け、又た他に製品の賣込を禁じたのである、尙ほ此會社は本來、獨占的意義を有せざりしものなるも、其後、仕立職の方面より多少非難の聲を聞くに至り、千七百二十五年に於て更に新會社の組織を見るに至つたのである、尙ほ最後の例證として見る可きものは「アムベルグ」錫ブリキ會社である、此會社は前の場合と異なつて云はば半官半民會社で其株主中には「バイエルン」の「フリドリッヒ」公其他、當時の政府に於ける要路の人々を網羅したのである、而して斯くの如き組織によつて

會社の得た利益は非難の多かつたに不拘、比較的長く獨占的地位を維持したことであるが、然し他の一面から見れば屢々會社の資金が政府方面に利用せられる機會を生むに至つたのである、現に千五百五十年「フリドリッヒ」は四千「フロリン」を一年間同會社から無利子で補給を仰いだことがあり、又、千五百九十五年以來は毎年其利益の幾部分を收むることになつたのである、尙ほ會社の業務を遂行する上に於て之れが支配權を握つてゐるのは同會社の監査役で、屢々會社に關する文書中には「*Stad*」の名稱を以て現はされて居るのである。

四

「ヤコブ、ストリュエデル」は以上舉げし如き企業組織が如何なる意味に於て以太利の株式會社と和蘭の株式會社の中間的地位を占むるかに就きて全然説明をしておらぬのであるが、論者の

見る處では「ステール」市に設けられし株式會社の如き同市に移住し來りし者によりて主として營まれしこと當時、以太利人にして此方面の鐵山等に活動せしもの、ありしことは、自から、其間に以太利の企業組織を輸入し得る餘地存せしが如し。(完)

マアシヤル教授の National Guilds 評論梗概

二 邊 金 藏

ホキットレイ報告中に唱道せられある工場委員及聯合産業會議の制度は、労働者をして同職組合に對して忠實なると共に、而して又時には其にも優りて、同一産業に従事する他の労働者に對して忠實ならしめんとする運動の一端を稍

々具體化せるものと謂ふ可きなるが、ナシヨナル・ギルドの要求も亦た此運動より後援を得たるものなるなり。然かも最近時に於て特に優勢となれる此運動は、一世紀前に生せる運動とは全く正反對の方向に走るものと稱す可きなり。蓋し十八世紀より移りて十九世紀に入るや手工業親方輩の所有にかゝる作業場は優勢なる産業單位たるの實を失ひ、夫より更に二世代を経たる後に於ては、雇主は——昔嘗つて労働者たりし者にも——専ら大工場組織と財政的方面とに執掌するに至りたればなり。

十九世紀末に至りては、同一工業内に於て營まるゝ作業の種類極めて多種多様となりたるが爲め、是に従事する各種職工間の共同的紐帶も亦た破れて各個の職工は勞銀其他の事項に關し指導と援助とを各自の組合に求むるに至れり。従つて組合に對する忠誠の觀念は其高尚なる情

緒に觸れ之を養ふに足るものありしが、自己の従事せる企業の一般的利害の如きは全く念頭より離れて強く其心に訴ふるどころなきに至りぬ。於是乎國家は總ての資本を自己の掌裡に收め有らゆる産業を直接に支配す可しと云ふ献策は、労働者の理想とより大なる物質的幸福に對する願望とに適ひ、労働者は各自の所得に對して權利を有するも彼若くは他人が之を用ひて生産に便せんとするは國家の權利に對する侵害たるを立證せんとするものなりと言はるゝマルクスの奇怪なる論法を容易に承認せんとするに至れり。蓋し労働者は資本の私有より生ずる一切の利潤は總て贓品たりと謂ふマルクスの説は重要な眞理を誇張したるものに外ならずと見做すものたればなり。

以上の如き社會主義的傾向は西歐諸國の大多數に於て殆んど軌を一にせるところなるが、ア

ングロ・サクソンの労働者は獨裁政治の表面上元氣極めて旺盛なるに隨喜して、自由の爲めの自由に無頓着なる獨逸其他の労働者とは稍其類を異にしたりき。フェービアン主義者は幾分純マルクス主義と妥協するところありたれども、輓近彼等の勢力は集産主義は労働者の物質的幸福を増すことあらんも其自尊自重を發達せしめざる可し、郵便夫は或は同情に富みたる可き雇主の支配を脱して、萬事命令下に動くのみにて自己の温情を恣にするを得ざる吏員輩の指揮下に立つによりて自由にせらるることなかる可しと主張する新なる一派の勢力の加はるに伴れて次第に衰退するに至れり。

然れば新運動は、筋肉労働者たると精神的労働者たるを問はず、一切の労働者に一人格者としての威嚴を認むるを最先の急務となさんとするものにして、其主張の要點は吾人は斯の如

くにして労働者の全精力を喚起し其活動を自由ならしむるを得可く、而して終には又斯の如くにして假令國家が私人所有の資本を沒收して將來の四、五十年間に亘りて普通の資本利子に該當する所得を生ず可き國債券を之に換へ與ふるも、猶ほ物質的幸福は一般に高めらるゝを得るが如き然かく大なる生産の増加を招徠するを得可きなりと謂ふに在るなり。實業家は此制度の下に於ても各自の産業の爲めに其活動を繼續するを得可し。然れども各個の産業に於ける作業の全體は、是れに従事する人々に依りて統制せらる可きにして、是等の人々は其集團的資格にて、換言すれば一個の「ギルド」として生産手段に對する賃借料を國家に納入するものなり。

却說此計畫に基くときは事業の統制は利用し得可き最優秀の技術上の知識と實務上の經驗とに依りて指導せらるゝを見る可し。何となれば

假令國家は或種の代償を其所有者に與へて一切の事業設備を引繼ぐとするも「ギルド」は其課程に參與す可き悉皆の適材を利用し得ればなり。「ギルド」の各員は何れも其の主要なる問題に投票して之を決するものなれども、斯くて一度決定せられたる方針は「ギルド」に於て最も有爲なりと考ふる人々に依りて實施せらるゝものにして、其人撰に當りては其が代償を受けたる舊の資本家たるも經驗を積める支配人たるも將た又新規なる事情の下に有爲の才能を展べ得たる筋肉労働者たるも一切之を問はざるものとす。

然れば此計畫は産業の全收獲を労働者に所屬す可きものと目する其一方に於て筋肉的ならざる労働は何れも之を輕視するが如き種類のもとは全く異なる智的水準上に立つものと言ふ可きなり。次に此計畫に於ては特種職業の内部に於ける管理は其全體を舉げて之を労働組合若くは

其後繼者の統御に委するものなれども併し産業の主要組織は其機能・職分に基礎を置きて之を定む可きにして、此點より之を見れば幾多の産業的機能は何れの職業の範圍にも屬せず、從つて何れの労働組合の勢力圏内にも屬せざるものたるを見る可きなり。

然れども以上の運動が未だ微弱たる域を脱せざる中に、早くも強力なる反對の喚起せらるゝの懼を避けんが爲めには周到なる用意を必要とするものにして「其基調は蠶食的統制たる可きなり」、然れども一度決勝線に到達したるときは「經濟的主權は「ギルド」(純然たる産業上に於ける發議權と等しく經濟上に於ける發議權をも有す)」と國家(さなくは眼中に置かるまじき公利的利益の保護者として進退す)との間に分たる可きものとす。此目的に對する手段としては先づ工場委員に於て其承認せざる職工長の位置を

保持し得可からざるものとなす可きにして、次には「出來得る限り夙に斯かる受働的承認を變じて労働者自身の能働的撰擧となし、斯くて「工場係り」が單に組合の役員たるに止らずして、更らに産業の役員を兼ねるものたるに至らしむ可きなり」、受領せる金額を自ら分配する組合の所定せる「集合契約」をして漸次に個人的契約に代らしむ可きなり。而して斯く「雇主の職分が漸次彼の掌裡より去るに伴れて戸録素餐の徒たる其根本的特質は愈々益々明瞭となる可くして其結果は終に彼の權力に一層本質的なるところのもの、即ち彼の威信を致命的に毀損するに至る可し」。

CH.D. Cole 氏は以上の計畫を精細ならしめて左の如く説けり。

各工場には若干の作業場に於ける労働者の全體に依りて撰出せられたる副委員會と直接若く

は間接に總ての作業場に依りて撰出せられたる工場委員會とを設く可し。若干の工場委員は地方同職組合に依りて撰出せられたる若干の同職組合代表者と共に地方委員會を構成し、斯くて順次にナショナル・ギルドの行政部と各地方の合同職組合の代表者より成る全國代表者會議とを組織す可し。筋肉労働者及刀筆的労働者は自己が其配下に勤務す可き各自の職工長と支配人とを各工場に對し及全「ギルド」に對して撰出す可きものとす。同一の規定は技術家の爲めに、各工場に對し各地方に對し及全國に對して設けらる可きものとす。

全國に於ける有らゆる産業の中央的統制は(イ)生産者を代表する「ギルド」會議(ロ)消費者としての國民を代表する議會、(ハ)單に總ての國民が代表せらるゝにあらずして社會的活動の各方面に於ける總ての國民が代表せらるゝものに

して、時折り「ギルド」會議と議會との間の争議を裁定す可き稍漠然たる團體との掌裡に置かるゝものとす。コール氏は更に主張して曰く、集産主義のユートピアは公設トラストの世界なる可く、「ギルド」のユートピアは全社會の利益の爲めに活動する生産者の形つくるカルテルの世界なる可し。若し「ギルド」にして陳腐平凡に陥る可からずとすれば、其は工場と工場、地方と地方及國民と國民との間に存する特殊性を保存せざる可からず。「ギルド」は人間の同一性を基礎として其上に建設せる人間差別性の組織なりとす。

現經濟制度の下に在りては、訓練は大部分「見えざる手」に依りて自働的に強制せらるゝものなれども、屢苛酷に失することあるが爲めに人間の努力に依りて幾度か其銳鋒を緩和輕減するの必要を招徠す。然れども此自働的訓練にして徹去せざらんか遍通廣大なる權威を招じ來りて

大事小事に於ける妄用を防止せんことを祈らざる可からず。若し「ギルド」組織にして其が現在に於て豫測せりとも見えぬ或る理念を發達せらむるにあらざれば、其は恐らくば混亂界に漂着して之より救ひ出すものは唯々武斷的專制主義のみなるを見る可し。

却説以上はナショナル・ギルドの梗概なりとして以下過去幾世紀間の經驗を馬耳東風ならしめざると共に、稍々大なる規模の下に於ては未だ嘗つて持續的成功を博したることなき組織方法が社會主義的豫言者の魔術棒の一揮と共に直ちに恒久的効力を生じ來る可しと想像するを敢てせずして形つくり得可き將來の可能性を豫測し試む可し。

先づ第一に重きを置く可きは一層責任の加重せる産業上の地位に任ず可き有爲なる人材を索め來る可き基礎を擴大するに依りて増加せらる

々と密接に交際するに依りて發揮せらるゝものなれども、大規模の事業に於ては優良なる才幹を有する人々と大多數の労働者とは直接に相接すること極めて稀なり。(第二)職工長及其他の中間階段に於ける役員は青年職工の心の奥底に潜在するより、高き才幹を十分に識別すること必しも迅速なりと謂ふ可からず、彼等は青年職工の作品に依りて彼を判定せんかなれども其は單に職工としての彼を判定し得る好材料たるのみにして彼のより優れたる能力を批判す可き材料としては極めて貧弱たるを免れざるなり。自己の労働者の總てを識れる小企業家は特殊職工の事業に對する價値と、彼の労働の價値との間に判然たる區別を立て、斯くて手先きの仕事に特に熟練迅速ならずとも、將來重要な責任を負擔せしむるに足る判断力と智力とを展ぶ可き見込ある労働者を重用するが故に、高き才能を有

産業能力の程度果して如何ばかりなるやの點なるが、吾人は恰かも此點に於て多少一部の世人と其見る所を異にするものなり。蓋し從來筋肉労働者を困憊せしめたる難事業の多くが自然力の適用に依りて容易に遂行せられ得るに至りて大多數の人々が高尙なる天稟の才能を發揮す可き機會を獲得したるは實際の事實にして、從つて重要な産業上の任務を擔任するに足る智力と品格とを具有する人士の増加したるも亦た疑なしと雖も、然かも最適任者が世間の表面に立つに至る可き見込は、下の如き種々なる原因に依りて削減せらるゝを免れずと稱し得可きものあればなり。(第一)一産業階段に於ける適不適は、必しも異なる種類の能力を必要とする他階段に於ける其適不適を指示するものにあらず。(第二)一人格の内部に存在する悉皆のものは少くとも其人自身よりも優れたる才幹を有する人

する労働者は次第に頭角を露はし得可しと雖も斯る種類の労働者は、將來の見込彼に比してより、少き大事業に於ける職工長及其他の小役員に依りて愛せらるゝこと少なき其上に、彼の價値は動もすれば彼の作品に依りて定めらるゝの傾向あるものとす。

扱て今ナショナルギルドは第一着歩として獨立せる事業に於て訓練せられたる人々の勤務を併合せんとするものにして、此工夫は一時の間誠に善く其作用をなす可きが故に上述の缺點は此處に避け得らる可しと雖も、然かも是等の人々一度去つて「ギルド」自ら其役員を養成せざる可からざるの時に至らば彼等は必ずや上記の原因の爲めに意外の困難に遭遇せざるを得ざる可きなり。

乃ち要約して之を言へば吾人は道德上及經濟上の進歩は愈々益々品性上加へられ得可き故

舞獎勵力の大小の程度如何に依りて定めらるゝものにして、而して是等の勢力中特に主要なるは一度責任ある地位に置けば從來左程必要ならざりし才能を發揮し來りて能く其任に堪ゆるの徴候を示す者は直ちに其地位に拔擢すること之れなりとなす者なるが、恰かも此點に於て他より何等の制肘を蒙ることなくして自由に拔擢を行ひ得るの地位に在り且つ全幅の精力を傾倒して此拔擢に従事す可き十全の動機を有する者は唯だ獨立せる企業家あるのみなるを見る者なりとす。

夫れ然り、然れども多大なる望を囑す可き餘地在るも亦た事實たるを失はざるなり。蓋し戰爭の如きを度外に措きて之を見れば、吾人は人間の幸福に對し、將た又より高尚なる人間才能の完全圓滿なる發達に對して必要なる資源と機會とを漸次に人口の殆んど全體に擴張するの希

望は次の諸條件を基礎として正當に之を期待し得となす者なればなり。其條件とは(第一)吾人は器械の供給を豊富にし之を奴隸として使役するに依りて最下層の人々の状態をも高め得るに至ること、(第二)吾人は是等奴隸の數と力とを増加し且つ長時間之を働かしむると共に、他方はが操縦者には交代制度を採用して最下層の勞働者といへども短時間の勞働に——但し時間中は勤勉に——服するの必要あるのみとならしむること、(第三)一般教育の程度を高めて、適當に指導せられたる器械的奴隸の爲し得る以上の仕事は之を爲すを得すと云ふが如き然かく無智なる成年男女の存在を見ることなきに至らしむること、(第四)思索、發明、企業、管理等の如き高尚なる才能を天賦せられたる人々が其才幹に匹敵せる責任地位に迅速に到達し得る途を熱心に開拓すること、(第五)善意なる事務員なら

ば何人にてても十分に之を遂行し得るが如き規律的事業經營と斯る事務員の能力以上にあるのみならず其性格と全然相合ざることすらも又たあり得ると雖も、然かも經濟上の進歩は之を果敢且つ賢明に遂行するに依りて來ると云ふが如き建設的企業との間に明白なる區別の存するを恒に忘却せざること、(第六)(イ)最も進歩的なる實業家は自己の計算に於て危険を冒し、金錢上の結果に依らずしては之を證明すること必しも容易と謂ひ得可からざる指導上の成功に依りて自己が有能なる指揮者たるの名譽を獲得するの自由を大ひに尊重する者なること、但し(ロ)總ての漕手を阻む逆流は競走上の熱心を實質的に減少せしむるものにあらざること、從つて(ハ)假令富有者に要求するに國民的目的の爲めに大なる寄附をなす可きことを以てするも企業は依然として存續するものなること、(第七)物質的

奴隸(即ち器械)を増加するの用に供せられたる可き資源に課する總ての租税は國民全體の爲めに有害なる其上に、或る點に於ては特に、貧しき人々の爲めに有害なるものなれば資本に非常なる重税を課して得たる所のもの、若くは其より出づる所得は之を經常費支辨の用に供す可からざること、(第八)國債の負擔が後世子孫の巨大なる災害的遺産たらんとする現在の如き時に於ては私有資本の集積を著しく阻止せんとするが如き總ての租税の所産を、此負債の減少に充當す可きものなるを主張すること、(第九)有能なる企業を養長し激勵する國家は稍重き租税を課するも猶ほ依然として資本を誘引す可しと雖も、然かも資本は不當なる取扱を受くるときは他に移住せんとする傾向を有すといふ事實を參酌すること(第十)雇主並びに資本家及び被雇者、約言すれば有らゆる階級及團體が其供給

を比較的稀少ならしむるに依りて自己の勤務若くは生産物の市價を高めんとする總ての行爲を避くること、等なりとす。

却説社會の目的に關する問題は各時代に於て其形體を新にするものなれども、併し其總ての根底に横はる根本原則は常に同一なるものにして、進歩は人性中の最強にして單に最高尙なるのみに止まらざる力が社會の利益増進の爲めに利用せられ得る範圍程度に職由すと謂ふものは即ち是れなりとす。而かも此根本原則は眞に社會の利益たるものは何ぞやとの間に關し若干の疑惑存在するの故を其基礎を害はるゝものにあらざるなり。何となれば社會の利益が人間の才能を健全活潑に行使し發達せしめて一方に自尊自重の心を養ふと共に他方に於ては希望の光明に支持せられて生氣ある幸福を生む點に主として存在するは衆論の結局に於て歸着する所たれ

れある彼の遙かなる目標を目指して撓まず倦まずに押し進まざる可からざるなり。

經濟的史觀論の價值 (七完)

野村兼太郎

九

然らば吾人が以上述べ來れる自由意思的理性的世界に於ける經濟的物的方面は如何。吾人が理性的判断を下すに當つて如何にするとも物質的考慮を全然度外視すること能はず。殊に「自己保存」のみを念とする時は著しく重要視さる。

これ依然として經濟的史觀論が他のあらゆる史觀論以上に強調さるゝ所以なり。然れども吾人が理性的判断をなすは單に生存のみを念として利害を判断するものにあらず。換言すれば「自己保存」を脱却せる、否時に相矛盾せる「自己

ばなり。然れば吾人は眞の理解を有する人々の同情と評價との温き息に俟ちて美はしき仕事と清新なる創意とを撫育せざる可からず。吾人は消費者を強むると共に消費の爲めに備ふる人々の最善の資質を喚起するが如き徑路に消費を轉せしめざる可からず。吾人は幾多の仕事の中には貴からずして然かも爲されざる可からざるものあるを認めて之を狭小なる範圍に制限せんが爲めと、其の自體に於て既に劣等たるを免れざる有らゆる生活條件を根絶せんが爲めとに不斷に増大し行く知識と物質的資源とを適用せんと努めざる可からざるなり。吾人の生活條件は、吾人が其を形つくと同様また吾人を形つくるものなる其一方に於て吾人自身は急速に變化し能はざるものなれば、遽かに多大なる改良を加へられ得可きものにあらざれども、併し吾人は高尚なる生活を營み得可き機會の總ての人に開か

主張」の精神を有するなり。

吾人々類は單獨に生存するものにあらずして社會を形成し其の一員たる以上、其の社會全般に對して一種の義務觀念を生ず。それが所謂共同責任 Solidarite の觀念たるを否とを問はず、社會的罪惡を忌避する所謂良心なるもの存在すること疑ふべからず。其の起源を「自己保存」若しくは「自己主張」に求めてこゝに唯物的倫理説を論じ得ざるにあらず。然れども余は尙ほ斯如き發生學的事物を觀察する危険を知り、且つ幾分の疑問を有するが故に輕々に斷じ去ることを欲せず。故にこゝにては斯如き道德的善惡の判断が先天的に存在し、カントと共に「わが内に存する道德律」を認識し得れば足れり。唯吾人の善と見るもの時に必ずしも社會多數の善と見る所と一致せざることあり。然れども吾人が社會に生存するは少くとも吾人の自己保存が社會に